

～はじめに～

令和 6 年度川崎市議会ヨーロッパ視察団は団員 10 名にて 11 月 3 日から 11 月 10 日までの 8 日間（6 泊 8 日）の日程でデンマーク王国（コペンハーゲン市）、英国（ロンドン市、シェフィールド市）の 2 か国 3 市を訪問し行政視察を実施いたしました。

海外行政視察は、国内での状況を分析するだけでなく、「海外における行政事情その他市政に関する必要事項の視察調査を行うことにより、時代に即応した国際的な知識を涵養し、経験を蓄積することを通して、市政の課題の解決に資するとともに、市民生活及び市政の発展に寄与すること」を目的として実施しております。具体的には海外の先進事例を積極的に見聞し視野を広げ、既存の概念にとらわれず柔軟な発想で課題解決への道筋を見出し実践することを共通認識として確認いたしました。

海外行政視察を実施するに先立ち「海外視察のあり方検討プロジェクト」が設置され、その後「海外視察実施検討プロジェクト」での協議を経て班編成・派遣時期・調査テーマ・派遣議員などについて決定がなされました。決定を受けてヨーロッパ視察団では「川崎市議会議員海外視察実施要領」に示されている視察参加者の打ち合わせ会を 7 回開催いたしました。

7 回の打ち合わせにおいて、ヨーロッパ視察団では主たる調査事項を社会福祉、社会保障（コペンハーゲン、ロンドン、シェフィールド）、ICT 施策（コペンハーゲン）、ヤングケアラー支援（シェフィールド）、地方自治制度（ロンドン）、まちづくり施策（ロンドン）といたしました。

また、打ち合わせの中で川崎市長の「親書」を持参し友好都市であるシェフィールド市長及びシェフィールド市議会議長を表敬訪問する事について提案があり、調整の結果、視察 5 日目の 11 月 7 日の訪問が可能となりました。併せて、「在英国日本国大使館」への訪問について協議を行い、現地との調整の結果、視察 6 日目の 11 月 8 日に訪問する事で調整がつけました。

さらに、視察国・視察市の政治、経済、社会情勢などの状況や、視察項目などについて基礎的な内容を参加団員が共有し、効果的な視察を行うために、有識者による勉強会を2回実施いたしました。

1回目の勉強会を10月17日に霞ヶ関の外務省において、欧州局西欧課の杉浦雅俊課長及びト部響世主査から「高福祉高負担国、世界幸福度ランキング上位常連」であるデンマークの現況（地域と市の役割分担・財政・市議会）などについて御教授いただきました。

2回目の勉強会は、10月21日に、本庁舎会議室に帝京大学の内貴滋教授をお招きし「イギリスの大都市制度」〈地方自治の母国から見た新しい都市構造〉と題して英国自治体の基本構造、GLC（大ロンドン都）、GLA（大ロンドン庁）などについて御講義をいただきました。

それぞれの勉強会については、視察項目に関連する重要な内容であり、活発な質疑応答が行われ、本市が直面している課題と視察都市の取組について比較、確認し、知識を深めることができ、極めて有意義な勉強会となりました。

以上、海外視察出発までの取組について記載させていただきましたが、詳細につきましては各団員がまとめた報告書をお目通しいただいた上で御意見・御示唆を賜れば幸いに存じます。

我々視察団も本視察から得た知識、情報、経験を活かして今後の川崎市政発展に貢献できるよう尽力してまいります。

終わりに、この度の海外行政視察に際しまして多大なる御理解・御協力をいただきました関係各位の皆様に心からの感謝を申し上げ、結びの言葉とさせていただきます。

川崎市議会ヨーロッパ視察団 団長 松原 成文